



地球市民

オホーツク国際理解教育研究会

2013/02/08 No.2

いつでも・どこでも・だれでもできる国際理解教育を目指して

ご案内

2月2日役員会の様子

2012 年度をふりかえって

オホーツク国際理解教育研究会会長 北見市立美山小学校長 吉田 寛

留辺蘂大会を振り返る

12月13日、北見市立留辺蘂小学校を会場に、平成24年度オホーツク国際理解教育研究大会北見大会を開催いたしました。お忙しい中、多数ご参加をいただき、誠にありがとうございました。研究大会では、留辺蘂小学校の藤田先生が、「水」に焦点を当て、子どもたちに「私たちにできることは何か」を考えさせる授業を行いました。また、ワークショップは、田川先生から、ICTの活用ということで、電子黒板を使った外国語活動について紹介していただきました。

今、国際理解教育は、『行動化』ということが求められています。『理解』から『行動へ』という子どもたちの変容が求められているのです。『命を奪う水』を切り口として、ユニセフの活動に育てていく指導の過程は、『行動化』に結びつくすばらしい授業になったのではないかと思います。また、国際理解教育研究会が提唱する『いつでも、どこでも、だれにでも』できる国際理解教育の、一つの姿として、貴重な提案授業になったのではないかと考えています。授業者の藤田先生には、心より感謝申し上げます。ワークショップを行っていただいた田川先生には、ICTを活用した先進的な授業実践を紹介していただき、感謝しています。私も、早速本校で、電子黒板を使った授業を実践してみました。これか

ら、大いに活用が期待される分野ではないかと思えます。

多くの方々から、貴重なご意見・ご示唆をいただきましたこと、本研究大会が、成功裏に終了することができましたことに深く感謝申し上げますとともに、ご助言をいただきましたオホーツク教育局・石川指導主事、会場校を提供していただきました留辺蘂小学校の皆さんに感謝申し上げます。

平成24年度は・・・

平成24年度のオホーツク国際理解教育研究会の活動も、2月23日に予定されている総会をもって一区切りとなります。海外教育事情研修会、全道大会、管内研究大会と大きな活動を中心に、全道の会議、管内の役員会と、本当にご苦労さまでした。FLA-Pの活動の成果も、大きいものがあると思います。海外派遣を希望する人がやや減少していること、他管内に比べてオホーツクからの派遣者が少ないのが気になりますが、会の存在をアピールして、若い会員の拡大に努めていきたいものです。

また、今後、オホーツクの会員を全道の会員につなげていく努力も必要かと思えます。外国語活動も含めて、国際理解教育の進展に更なるご協力をお願いいたします。



平成24年度総会・懇親会について

平成25年2月23日(土)に実施します。多くの方のご出席をお待ちしております。

<総会>

時間：16:00～

会場：オホーツクビール園

北見市山下町2丁目2-2

0157-23-6300

<懇親会・激励会>

時間：18:00～

会場：オホーツクビール園

会費：3500円

出欠については、21日までに、北見南小学校菅原教頭先生まで電話またはFAXで連絡してください。

管内研究大会 in 留辺蘂小学

基調報告

相馬研究部長から、これまでの研究の流れ、研究課題と仮説について、説明がありました。

「いつでも、どこでも、だれでも行える国際理解教育」

という スローガンのもと、視点の一つとして「行動化を促す授業づくり」が必要であることが報告されました。

外国語活動ワークショップ

田川満男教諭(雄武町立共栄小学校)が講師となり、デジタル教材を活用した実践の報告がなされました。

今年度、英語ノートから「Hi friends」に変わり、その補助教材として希望学校に配布されているDVDを利用して単語の発音やゲーム、チャンツなど意外と手間をかけずに利用できることが紹介されました。

また、模擬授業形式の中で、「相手にリズムよく拍手を送る」ことで授業を盛り上げる事例等が紹介されました。

公開授業

北見市立留辺蘂小学校藤田大之教諭が、6年社会科「世界の人々とともに生きる」で公開授業を行いました。誰もが、安全であると思っている身近な水が、地域によっては命を奪うことになることを1枚の写真から導き出して行きます。メジナ虫症という痛みを伴う事例も紹介され、子ども達の中から驚きの声が上がりました。

そして、このような状況を救うために ①自分ができること ②自分ではできないけど、こうしたらいいんじゃないかということ の2つの視点からアイデアを出し合い、班で交流して行きました。

最後に、班ごとの発表を行い、「募金する」とい

う声から藤田先生の発問からユニセフの募金が子ども達の中から自然に出てきました。もちろん、募金だけではないことを確認し、次時への学習内容へとつなげていきました。



北海道国際理解研究協議会理事会から

1月8日、札幌市にあるJICA国際交流センターで、全道理事会及び派遣教員研修会め帰国教員報告会が開催されました。理事会には私と、菅原事務局長、研修会には相馬研修部長、帰国した齊藤先生等が出席しました。理事会では、中村 淳会長の再任が決められたほか、研究推進、各種業務等について検討されました。今年の全道大会は、釧路市で開催されます。

また、平成29年度に、ここオホーツクでの開催が決まりました。各部からは、特に会員の拡大と会費の納入について依頼がありました。また、全国海外子女教育研究協議会(全海研)と連携して『教材化プロジェクト』を進めるという案内がありました。海外での経験から得た資料や写真を集めて、データベース化しようという試みです。後日、詳しくお知らせいたします。

会費の納入はお済みでしょうか？

3000円です。

お問い合わせは

端野中学校小野寺哲浩教頭先生

(Tel0157-56-2023)まで

